

2014年2月28日 全4頁

Indicators Update

1月消費者物価

前年比+1.3%と1%台前半の推移が続く。耐久財では白物家電も上昇

経済調査部
エコノミスト 齋藤 勉

[要約]

- 2014年1月の全国CPI（除く生鮮食品、以下コアCPI）は前年比+1.3%と、市場コンセンサス（同+1.3%）通りの結果となり、上昇幅も前月と変わらなかった。市況要因を除いた物価動向を表すCPI（食料（除く酒類）及びエネルギーを除く総合、以下コアCPI）は前年比+0.7%と、こちらも前月と同じ上昇幅であった。
- 2014年2月の東京都区部コアCPIは前年比+0.9%と、10ヶ月連続の上昇となった。上昇幅も前月（同+0.7%）から拡大しているが、半耐久消費財、非耐久消費財、サービスと幅広い品目で物価上昇幅が拡大しており、物価上昇のすそ野が広がっている模様である。東京都区部コアCPIを踏まえると、2014年2月の全国コアCPIは前年比+1.3%となる見込み。
- 先行きについては、コアCPIは当面前年比+1%台前半の推移が続くとみられる。これまでコアCPIを押し上げてきたエネルギーに関しては、当面は「電気代」による押し上げが続く見込み。ただし、為替が足下の水準で落ち着いた場合、円安を背景とした輸入価格上昇による押し上げは徐々に剥落していくこととなる。エネルギー全体の寄与は縮小していく見込みである。一方、エネルギー以外の物価に関しては、景気回復によるGDPギャップの改善に沿う形で、緩やかに上昇幅が拡大していく公算が大きい。また、このところ食料品等でみられている原材料価格の上昇を販売価格に転嫁する動きは、今後も続くとみられ、コアCPIの押し上げに作用する見込みである。

図表1：消費者物価指数の概況（前年比、%）

| | 2013年 | | | | | | | 2014年 | |
|------------|-------|------|------|------|------|-----|-----|-------|-----|
| | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 |
| 全国コアCPI | 0.4 | 0.7 | 0.8 | 0.7 | 0.9 | 1.2 | 1.3 | 1.3 | |
| コンセンサス | | | | | | | | 1.3 | |
| DIR予想 | | | | | | | | 1.4 | |
| 全国コアコアCPI | ▲0.2 | ▲0.1 | ▲0.1 | 0.0 | 0.3 | 0.6 | 0.7 | 0.7 | |
| 東京都区部コアCPI | 0.2 | 0.3 | 0.4 | 0.2 | 0.3 | 0.6 | 0.7 | 0.7 | 0.9 |
| コアコアCPI | ▲0.4 | ▲0.4 | ▲0.4 | ▲0.4 | ▲0.2 | 0.2 | 0.3 | 0.3 | 0.5 |

(注1) コンセンサスはBloomberg。

(注2) コアCPIは生鮮食品を除く総合。コアコアCPIは食料（除く酒類）及びエネルギーを除く総合。

(出所) 総務省統計より大和総研作成

コア CPI は前年比+1.3%と、1%台前半の推移が続く

2014年1月の全国CPI（除く生鮮食品、以下コアCPI）は前年比+1.3%と、市場コンセンサス（同+1.3%）通りの結果となり、上昇幅も前月と変わらなかった。市況要因を除いた物価動向を表すCPI（食料（除く酒類）及びエネルギーを除く総合、以下コアコアCPI）は前年比+0.7%と、こちらも前月と同じ上昇幅であった。

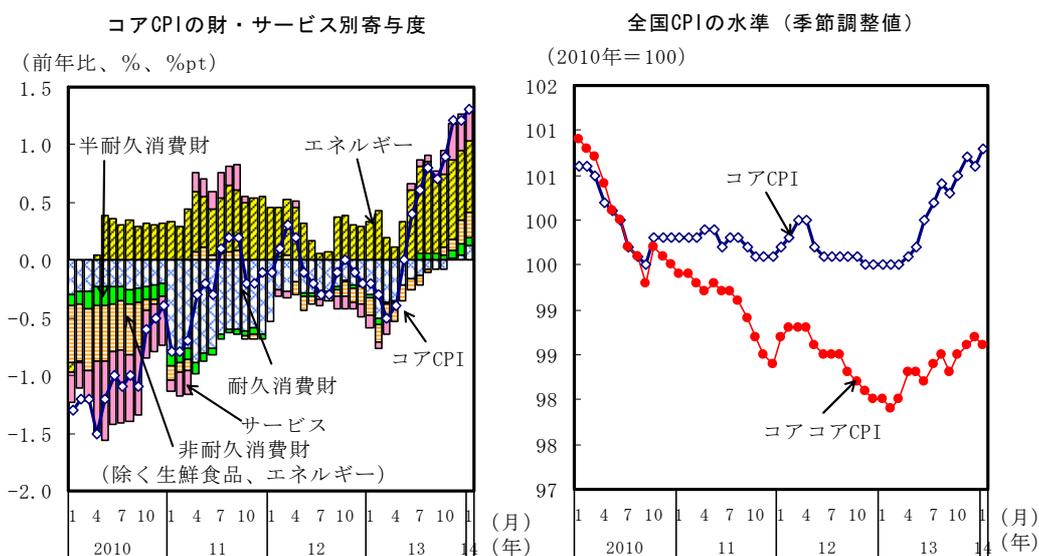
耐久消費財価格が幅広く上昇

1月の全国コアCPIを財・サービス別に見ると、耐久消費財は前年比+2.2%と3ヶ月連続で上昇し、上昇幅は前月から拡大した（コアCPIに対する寄与度、2013年12月：同+0.05%pt→2014年1月：同+0.12%pt）。「電気炊飯器」や「電気冷蔵庫」などの白物家電が上昇に転じたことに加え、いわゆる黒物家電では上昇幅の拡大が続いており、耐久消費財価格は幅広く上昇している。非耐久消費財（除く生鮮食品）も4ヶ月連続で上昇となり、上昇幅は拡大した（コアCPIに対する寄与度、2013年12月：前年比+0.20%pt→2014年1月：同+0.22%pt）。引き続き食品価格が上昇しており、コスト上昇を価格に転嫁する動きが進んでいる模様だ。半耐久消費財（コアCPIに対する寄与度、2013年12月：同+0.09%pt→2014年1月：同+0.07%pt）は9ヶ月連続で上昇、サービス（コアCPIに対する寄与度、2013年12月：同+0.32%pt→2014年1月：同+0.27%pt）も8ヶ月連続の上昇となった。

2月東京コアは前年比+0.9%、2月の全国コアCPIは前年比+1.3%となる見込み

2014年2月の東京都区部コアCPIは前年比+0.9%と、10ヶ月連続の上昇となった。上昇幅も前月（同+0.7%）から拡大しているが、半耐久消費財、非耐久消費財、サービスと幅広い品目で物価上昇幅が拡大しており、物価上昇のすそ野が広がっている模様である。東京都区部コアCPIを踏まえると、2014年2月の全国コアCPIは前年比+1.3%となる見込み。

図表2：全国コアCPIの内訳、水準の推移

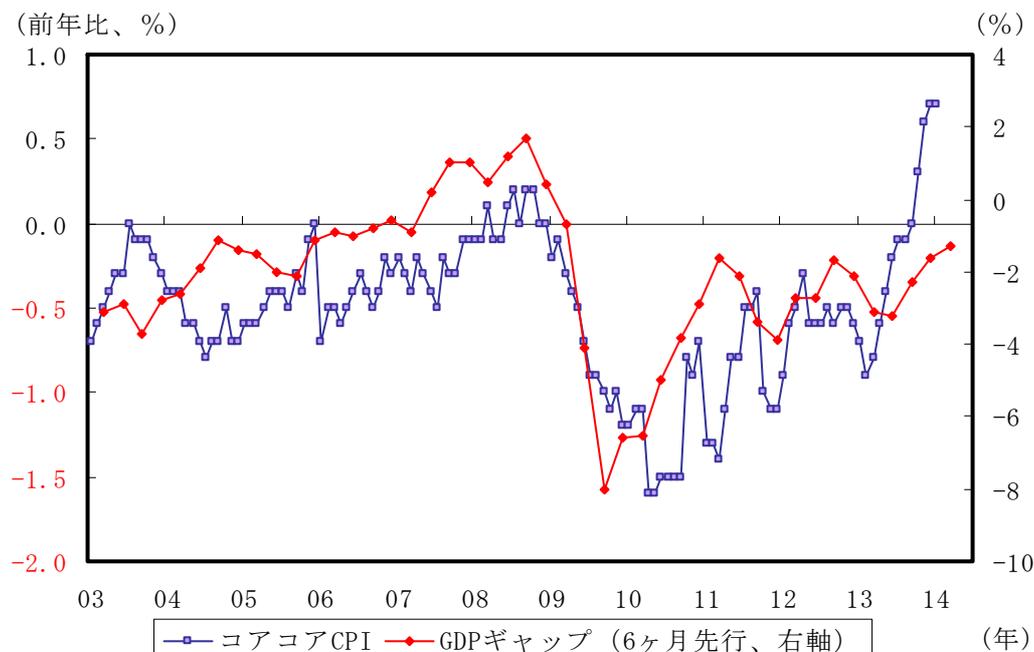


(注) コアCPIは生鮮食品を除く総合、コアコアCPIは食料（除く酒類）及びエネルギーを除く総合。
(出所) 総務省統計より大和総研作成

コア CPI は当面前年比+1%台前半の推移が続く

先行きについては、コア CPI は当面前年比+1%台前半の推移が続くとみられる。これまでコア CPI を押し上げてきたエネルギーに関しては、2013 年 5 月、9 月に行われた電力料金の値上げの効果が継続すること、燃料費調整制度による値上げが続いていることにより、当面は「電気代」による押し上げが続く。ただし、為替が足下の水準で落ち着いた場合、円安を背景とした輸入価格上昇による押し上げは徐々に剥落していくこととなる。エネルギー全体の寄与は縮小していく見込みである。一方、エネルギー以外の物価に関しては、景気回復による GDP ギャップの改善に沿う形で、緩やかに上昇幅が拡大していく公算が大きい。また、このところ食料品等でみられている原材料価格の上昇を販売価格に転嫁する動きは、今後も続くこととみられ、コア CPI の押し上げに作用する見込みである。

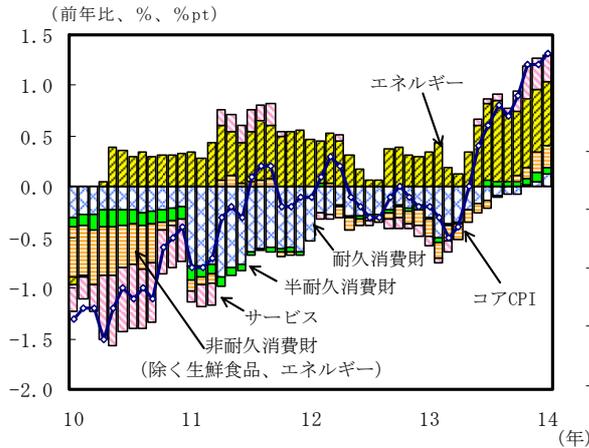
図表 3 : GDP ギャップとコアコア CPI



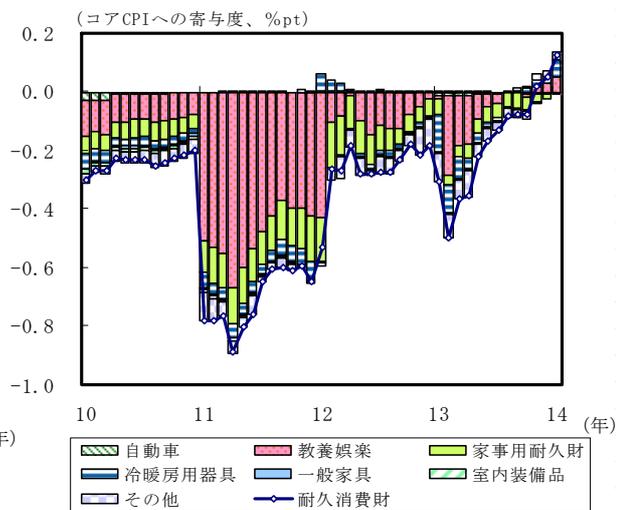
(出所) 総務省、内閣府統計より大和総研作成

財・サービス別にみたコアCPIの動き

全国コアCPIの財・サービス別寄与度分解

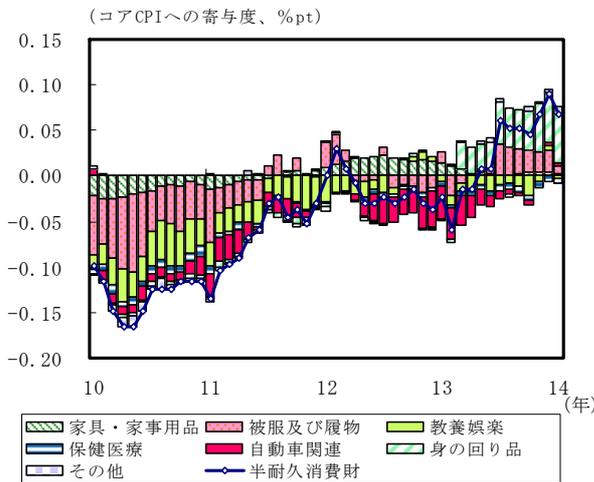


耐久消費財

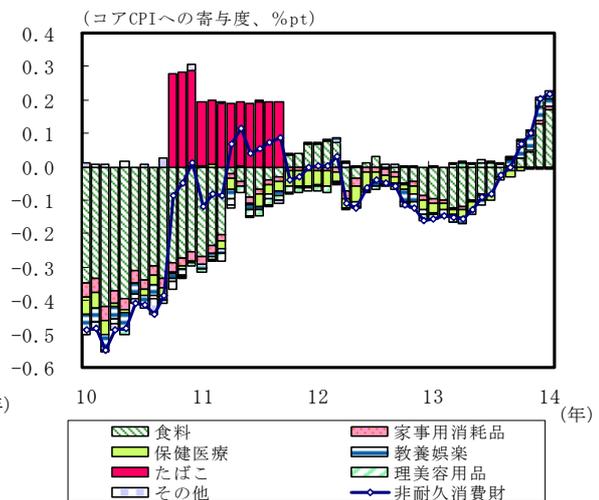


(出所) 総務省統計より大和総研作成

半耐久消費財

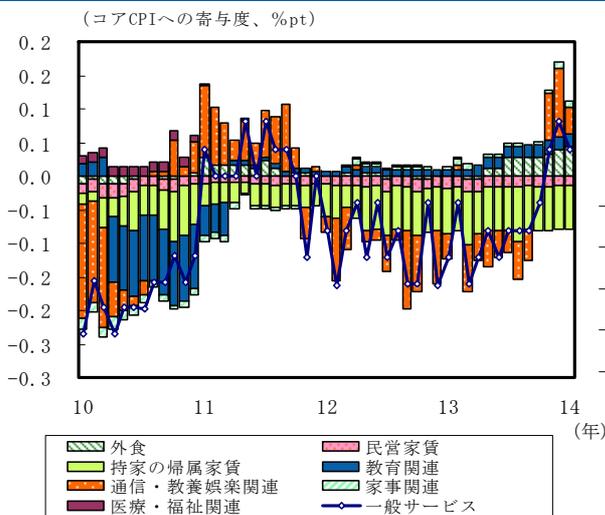


非耐久消費財

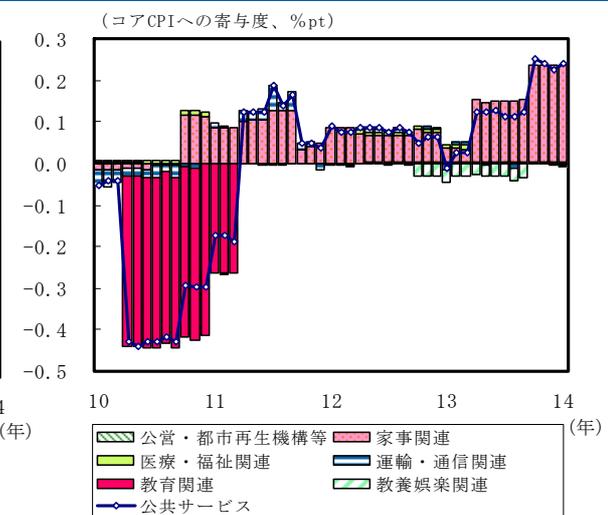


(注) 右図の非耐久消費財は、生鮮食品、エネルギーを除く。
(出所) 総務省統計より大和総研作成

一般サービス



公共サービス



(出所) 総務省統計より大和総研作成